

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

主体的なコミュニケーション活動を通して、他者と協働して自己の学びを深める生徒の育成

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

令和6・7年度の2か年計画で南河内第二中学校区の小中一貫教育のテーマとして「聞いて考える力の育成」を掲げ、「教育活動全体を通して、聞いて考える力を育て、相手の考えや気持ちを理解し、自分の考えを深めることができる子どもの育成」を目指している。そこで学校課題は「主体的なコミュニケーション活動を通して、他者と協働して自己の学びを深める生徒の育成」と継続することにした。協働する必然性のある学習課題を積極的に取り入れることで思考力・表現力を高め、他者と協働して課題を解決する過程で、自己の学びを深めることができる生徒を育成することができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究の仮説

昨年度の課題として、他者の意見を聞いて考える力を育成するためには、自然に『疑問』や『対話』が生まれる発問を工夫し、ジグソー学習のような協働する必然性のある学習課題を研究・開発する必要がある、というものがあつた。「主体的・対話的で深い学び」を単なる話し合い活動で終わらせるのではなく、協働を通して自分の考えや理解が変わる体験にまで高めるには、何よりも課題設定が大切である。解法や根拠が複数ある課題や立場によって意見が変わる課題、情報が分散している課題などを設定することで、『疑問』や『対話』が自然に生まれ、様々な見方・考え方に触れることで生徒自身の学びが更新され、より深い学びにつながると考える。

3 研究内容

(1) 具体的方策

学校課題を実現するための具体的な研究内容を以下の5つとし、各教科の特性を生かしつつ、日々の授業での実践を目指した。

- ①自然に『疑問』や『対話』が生まれるための目的・場面・状況の設定の工夫。
- ②学習意欲を高める実践的・体験的な学習活動の充実を図るための工夫。
- ③話す・聞く・読む・書くの4つの言語活動の充実を図る工夫。
- ④学びの連続性を意識した振り返りの工夫。
- ⑤コミュニケーション活動を活性化させるためのタブレット活用の工夫。

(2) 研究方法

①各教科での研究計画の作成・実践

年度当初に各教科部会で、研究主題をふまえた目標を設定し、それに沿った研究実践を行った。

(例) ・主体的なコミュニケーション活動につながるような資料の活用や発問の工夫、学習形態について考える。(社会)

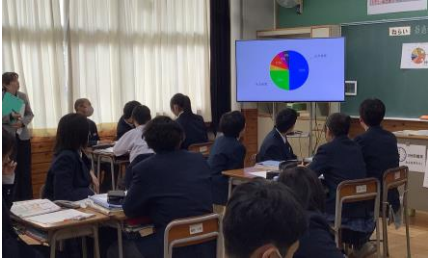
・見通しをもって観察・実験を行うなどして探究し、日常生活や社会と関連付けながら意見をまとめる話し合い活動を通して理解を深めることができる授業を展開する。(理科)

・授業の中で1人1人が音楽に対する思いや意図を持ち、それを伝え合うコミュニケーション活動を設定し、思考力・判断力・表現力を高める。(音楽)

②一人一公開授業

各教科の研究計画をもとにして、要請訪問やS&Uコラボ事業とは別に、一人一公開授業を異年齢・異教科の3班編制で実施した。授業者は、学校課題を意識した授業のねらいや参観の視点等を記入した指導の概要を作成し、配付した。授業後は授業感想用紙に、有効であった教師の手立てや授業改善のポイントを授業者にフィードバックした。

(3) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	教科	単元名	課題追究のための手立て等
10/1	3年	数学	関数 $y=ax^2$ (S & U コラボ事業) ◎いろいろな関数の利用 「走行時の速さを推測しよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の現場検証の写真をもとに、速度を推測する必要性を感じ、自然な流れで課題に取り組めるようにした。 ・視覚的な理解を得るために、シミュレーションツールを用いて測定値を示した。 ・単純な数の並びにならないよう、あえて端数が生じる数なども入れ、対話が生まれるようにした。 ・どのような根拠で関数 $y=ax^2$ とみなしたのかを説明させることにより、生徒の主体的なコミュニケーション活動を活性化させ、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図った。
11/11	2年	技術	エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組みを知る (要請訪問) ◎最適なエネルギーミックスを考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にさまざまな発電方法のプラス面、マイナス面について調べ、エネルギーミックスに対する自分の考えをもとにグループ活動を行った。 ・どのように発電方法を組み合わせていくことが理想的なのか考えさせ、最適解を導いていこうとする中で調整力の向上を図った。 ・多くの意見を聞いた上で、最終的に自分にフィードバックさせ、自分の考え方を深めさせた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①各教科で設定した目標をもとに、日々の授業を実践することで、主体的なコミュニケーション活動を通して、他者と協働して自己の学びを深める生徒の育成に迫ることができた。
 - ・数学的な資質・能力を向上させるためには、身近な事象を考えさせたり、既習事項を応用させたりするような課題に取り組ませることが有効であると感じた。(数学)
 - ・ペアやグループ活動を取り入れ、お互いに助け合いながら活動することで、安心して発言できる雰囲気ができ、主体的なコミュニケーション活動につながった。(英語)
- ②研究授業や一人一公開授業では、各教科で『疑問』や『対話』が自然に生まれるような課題を設定し、主体的なコミュニケーション活動が行われるような工夫を行った。特に要請訪問の授業では、考えが変容した生徒の姿を教職員で共有できた。また、お互いの授業を見合うことで新たな気づき生まれ、日常の授業においても、生徒の思考を揺さぶるような教師側の発問の工夫が見られ、生徒が学びを深める場面が増えた。ICTの活用についても単に課題や資料を提示するだけでなく、意見や考えを共有するツールとして役立てることができた。

(2) 研究の課題

- ①協働的な学びが成立しない理由の1つに自分の考えを持っていない状態で話し合いに入ってしまうことがあげられる。自己の学びを深める生徒を育成するために『課題設定』だけでなく、『授業の流れ』や『学習形態』、『教師側のファシリテート』についても研究していきたい。
- ②『振り返り』についてはまだ改善の余地があると考え。単に感想を書かせるだけでなく、生徒が自分の考えの変容に気付くような振り返りを実施することで、他者と協働することで自分の学びが深まったと思えるのではないだろうか。『振り返り』についても考えていきたい。